

なぜ私達は働くのか
—働く意義、喜びとは—

公益社団法人経済同友会
幹事 林 明 夫

Q1：自己紹介を兼ねて中学校や高校、大学のときに好きだったことばを教えてください。

A：(1)「学問に王道なし」(ユークリッド)

There is no royal road to learning.

(2)「練習で泣いて試合で笑え」(足利市立山辺中学校柔道部監督 椎名弘先生)

(3)「ブルドッグ魂、食いついたら離すな」(足利市立山辺中学校のクラス担任 岡田忠治先生)

(4)「一所懸命」一つの所で命を懸けるくらい熱心なものごとに取り組もう
(栃木県立足利高校マラソン大会の合い言葉)

(5)「スポーツの3つの宝。練習は不可能を可能にする、フェアプレイ、良き友」
(慶應義塾大学塾長 小泉信三先生)

Q2：現在の仕事や活動を紹介してください。

A：(1)開倫塾 塾長。株式会社 開倫塾代表取締役社長

(2)学校法人 有朋学園 有朋高等学院 理事長(福島市)

(3)宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授

(4)マニー株式会社(手術用縫合針製造) 顧問、元社外取締役(2004～2010年)
(本社：宇都宮市。現地法人：ハノイ、ヤンゴン、ビエンチャン)

(5)社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム 清明苑 監事(足利市)

(6)開倫ユネスコ協会 会長

(7)CRT 栃木放送「開倫塾の時間—林明夫の歩きながら考える—」毎週土曜日 9:15～9:25
担当、この3月で30年目に入ります。

Q 3 : 仕事とは何ですか。人は何のために働くのですか。

A : (1) ①仕事とは、お客様の問題を解決することで、お客様のお役に立つこと。

②同じような問題を抱える人が世の中にはたくさんいらっしゃいます。

ですから、お客様の問題を解決することは、社会のお役に立つことでもあります。

③まとめていうと、仕事とは、お客様の問題を解決することで、お客様のお役に立つこと、社会のお役に立つことです。

(2) 仕事で大切なのは「産業(業界)」と「職種」と「企業」です。

①産業(業界)には、「コンビニ業界」「ファミリーレストラン業界」「自動車整備業界」などがあります。

*産業とは、同じ種類のものやサービスを作っている企業の集まりのことです。

②職種には、「店員」「調理師」「店長」「自動車整備士」などがあります。

*業種とは、個々のものやサービスを提供する人のことです。

④企業には、「セブン・イレブン」「ローソン」「ユニクロ」「西松屋」などがあります。

⑤働くうえで大切なのは、1つ1つの「産業」「職種」「企業」のお客様や社会にとっての「役割」「価値」「意味」とは何かをよく知って働くことです。

(3) 人が働くのは、

①お客様のお役に立つため、社会のお役に立つため。

②生活できるだけの収入を得るため。

③自己実現。よく生きるため。

Q 4 : 学校での学習や様々な活動は、世の中に出て役に立つのですか。仕事をするとき役に立つのですか。

A : すべて役に立ちます。役に立たないことは1つもありません。

(1) 小学校での学習が中学校ですべて役に立っているように、中学校での学習は高校で、高校での学習は大学や短期大学、専門学校、大学院で、また、社会に出てからすべて役に立ちます。

(2) 中学校での教科以外の活動も、上の学校で、また、社会に出てからすべて役に立ちます。役に立たないことは1つもありません。

(3) 例えば、お客様の問題や課題を解決するために、中学校での教科の学習や教科以外の活動はすべて役に立ちます。

(4) ですから、中学校や高校などの学校の教科書や教材、辞書は捨てないで、一生身近に置いて、時々読み返すことをお勧めします。

Q 5 : 中学校時代に身に付けておいたほうがよいことは何ですか。

A : (1) 「学習の仕方」を身に付け実際に行うことができるようにしておくこと。

①辞書の使い方 ②授業の受け方 ③「ノート」の取り方、活用の仕方

④「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の仕方

⑤予習の仕方 ⑥テストの受け方

*必ず復習をして、その日の授業の内容を身に付けよう。

(2)新聞を読み自分で考えるカー「スクラップブック」を一

*新聞は毎日読もう。

(3)読書による思慮深さ(しりよぶかさ)―「書き抜き読書ノート」を一

*本は毎日読もう。

(4)図書室、図書館の利用の仕方

*毎日1回は学校の図書室に行こう、毎週1回は区の図書館に行こう。



(5)「5S」

①整理(せいり・seiri)―いらぬものを処分する

②清掃(せいそう・seisou)―きれいに掃除する

③整頓(せいとん・seiton)―すぐに取り出せるようにする

④清潔(せいけつ・seiketsu)―①～③を保つ

⑤躰(しつけ・shitsuke)―自分から進んで行く

*家や学校のカバンや机、ロッカー、タンスの中、家や部屋の中で5Sをやってみよう

(6)別の意味での「躰」

①美しい立居振舞い(たちいふるまい)―服装は大切

②敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)―「です、ます」で話せること。乱暴な言葉は用いない。

Q6：効果の上がる家庭学習の方法とは何ですか。

A：(1)「理解」(うんなるほどとよくわかること)

①よくわからないことがあったら、気持ちが悪いと思い、「辞書を用いて学ぶ」こと。

*「辞書」で調べたことばの意味は、ノートに書き写し、その場で覚える。

②授業のノートを整理すること。

*「授業中」に必要なことは「ノート」に取る。

―授業中に必要なことについて「ノート」が取れるのは「能力」

③何がよくわからないのかをはっきりさせて授業に臨むこと。

(2)「定着(ていちゃく)」(授業や家庭学習で「理解」したことを「身に着ける」こと)

①「音読練習」

*スラスラとよく読めるようになるまで大きな声を出して読む。

大切なことは、音読しながら正確に覚える。

②「書き取り練習」

*「楷書(かいしょ、教科書の書体)」で正確に書けるまでにする。

*英語のスペリング(綴り字)も書いて覚える。

③「計算・問題練習」

*なぜそのような答えになるかがよく「理解」できたら、計算や問題を見た瞬間にパッパッパッと条件反射で正解が出るまで、何回も解いてみる。

「定着のための3大練習」は成績アップ、希望校合格に直結する。

(3)「応用」(「理解」、「定着」したことを役立てることができること)

①入学試験や検定試験、資格試験では過去に出題された問題(過去問)を5～6年分、5～6回やり直し、よい点数、合格点が取れるようにすること。

*「間違いノート」「まとめノート」を作成する。

②学校や仕事、社会的活動、日々の生活で役立てることができること。

Q7：これからの社会はどのような社会ですか。そこで求められる能力とはどのような能力ですか。

A：(1)「知識が基盤となった社会(知識基盤社会)」です。

①知識・情報・技術を用いる能力が求められます。

②コンピュータ(ワード・エクセル)は必須です。



(2)「グローバル化した社会(グローバル化社会)」です。

①多様な集団で交流する能力が求められます。

②英語(「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能)によるコミュニケーション能力は欠かせません。

(3)「課題が山のように高く積もっている社会(課題山積社会)」です。

・自律的に活動する能力が求められます。

Q8：それらの能力を身に着けるにはどうしたらよいのですか。

A：(1)「読書による思慮深さ」を身に着けること。

・「書き抜き読書ノート」を



(2)「新聞を読み、自分で考える力、批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」を身に着けること。

・「スクラップブック」を

(3)「学び方を学ぶ能力」を身に着け、それを実際に使うこと。

・「効果の上がる学習の方法」とは何かを考え、よいと思ったら、失敗を恐れずにどんどんやってみること。

Q9：最後に一言どうぞ。

A：(1)自分のよさ、家族のよさ、友達のよさ、学校のよさ、足立区のよさ、東京のよさ、日本のよさ、アジアのよさなど、よさ、よいところを自分の力で探し出し、ことばに出して表現して、認め合い、どんどん伸ばそう。

—自分や他人にあまり厳しくしないこと、お互い様の精神でみんな仲良く—

(2)「健康第一」—心の健康、身体の健康—

(3)「一生勉強、一生青春」(足利市出身の書家相田みつを先生のことば)

以上

御清聴ありがとうございました。質問があったら、どんどんしてくださいね。